

研究課題番号	3J173001
研究課題名	震災からの迅速復旧のためのレジリエントな最終処分場の実用化
研究実施期間	平成29年度～令和元年度
累計予算額	33,450 千円
研究機関名	九州大学
研究代表者名	島岡 隆行

1. 評価者の指摘及び提言概要

従来型の廃棄物処分場とは異なる固化式処分場について、強固化・減容化・飛散防止・浸透抑制の各機能を綿密に検討し、有害物質の流出抑制と LCC 試算を行うなど、有益な成果が得られており、従来の概念を覆す「革新的な最終処分場」が生まれる可能性が示されたと思われる。しかし、「都市型処分場への移行」については言及が不十分であり、「迷惑施設」と位置付けられていることを払拭するためのエビデンスの準備とそれにもとづく意識変容手法が必要であろう。また、研究タイトルにある「震災からの迅速復旧のためのレジリエントな最終処分場」という観点からの意味付け（考察）が十分ではない。今後、得られた研究成果を踏まえ、論文・特許の公表とともに、早期の実用化に向けた実証試験を期待したい。

2. 評点

総合評点：A